

## 女性研究者の活躍促進 シンポジウム「日本の女性がノーベル賞を受賞する日」



お茶の水女子大学では、学長のリーダーシップのもと、優れた女性研究者を養成するさまざまな取り組みをおこなっていますが、平成18年度から20年度には、文部科学省科学技術振興調整費による女性研究者支援モデル育成プログラム「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」事業を実施してまいりました。プログラムの進捗もいよいよ大詰めを迎えた今、これまでの成果報告と今後に向けた女性研究者支援の方向性を世の中に発信する場として、「日本の女性がノーベル賞を受賞する日ー女性研究者養成システム改革の加速へー」と題したシンポジウムを、2009年2月14日、本学微生物堂にて開催しました。

当日は、突然の春の到来を感じさせるような暖かなバレンタインデーの午後。200名を超える方々が日本全国よりわざわざ足を運んでくださいました。

シンポジウムでは、郷通子学長挨拶の後、来賓として泉紳一郎文部科学省科学技術・学術政策局長から、文部科学省の研究者支援の取り組みについてのご来賓挨拶がありました。若手研究者支援の一つとしてお茶の水女子大学が行っている日本学術振興会若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（若手ITP）が紹介され、このような本学の取り組みが、将来日本の女性がノーベル賞を受賞する日につながることを期待していると述べられました。

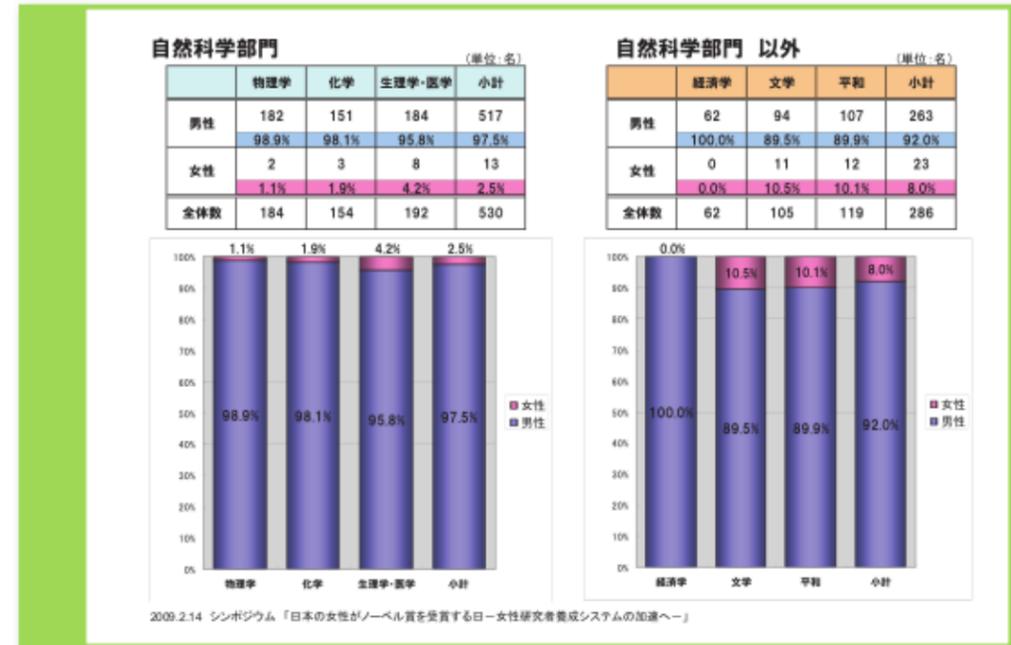
続いて、宮尾正樹お茶の水女子大学女性支援室長より、3年間の女性研究者支援モデル育成事業の成果として、DVD上映のほか、女性が働きやすい環境構築のための指標「お茶大インデックス」及び「女性研究者支援ワークブック」の提案について報告がなされました。



引き続き、産学官各界から3名の方々（板東久美子 内閣府男女共同参画局長、國井秀子 IEEE JC Women in Engineering, Chair リコーソフトウェア㈱取締役会長、黒田玲子 ICSU 副会長 東京大学大学院教授）をお招きしての講演を、また上川陽子 元内閣府特命担当大臣（少子化対策・男女共同参画）をお招きして、郷通子学長との「大臣が語るノーベル賞」と題した対談が行なわれました。なお、野田聖子 内閣府特命担当大臣（科学技術政策・食品安全） 消費者行政推進担当大臣 宇宙開発担当大臣および小淵優子 内閣府特命担当大臣（少子化対策・男女共同参画）からはビデオメッセージが届けられ、紹介されました。

最後に、今後更なる取り組みを推進していくために「女性研究者養成システム改革の加速へ」と題したパネルディスカッションが、板東久美子、國井秀子、黒田玲子、郷通子の4氏によって行われ、研究者支援の必要性、研究環境の整備など、更なる女性研究者養成システム改革を加速していくことの必要性が熱く論じられました。

このシンポジウムを通して、国立の女子大学として、また創設以来多くの偉大な女性科学者を輩出してきた先駆者として、本学の今後の研究者支援の取り組みに内外から大きな期待が寄せられていることが再認識されました。



## 女性研究者の活躍促進 シンポジウム「日本の女性がノーベル賞を受賞する日」